

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak  
LICENSED PRODUCT

3/Color  
Black

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

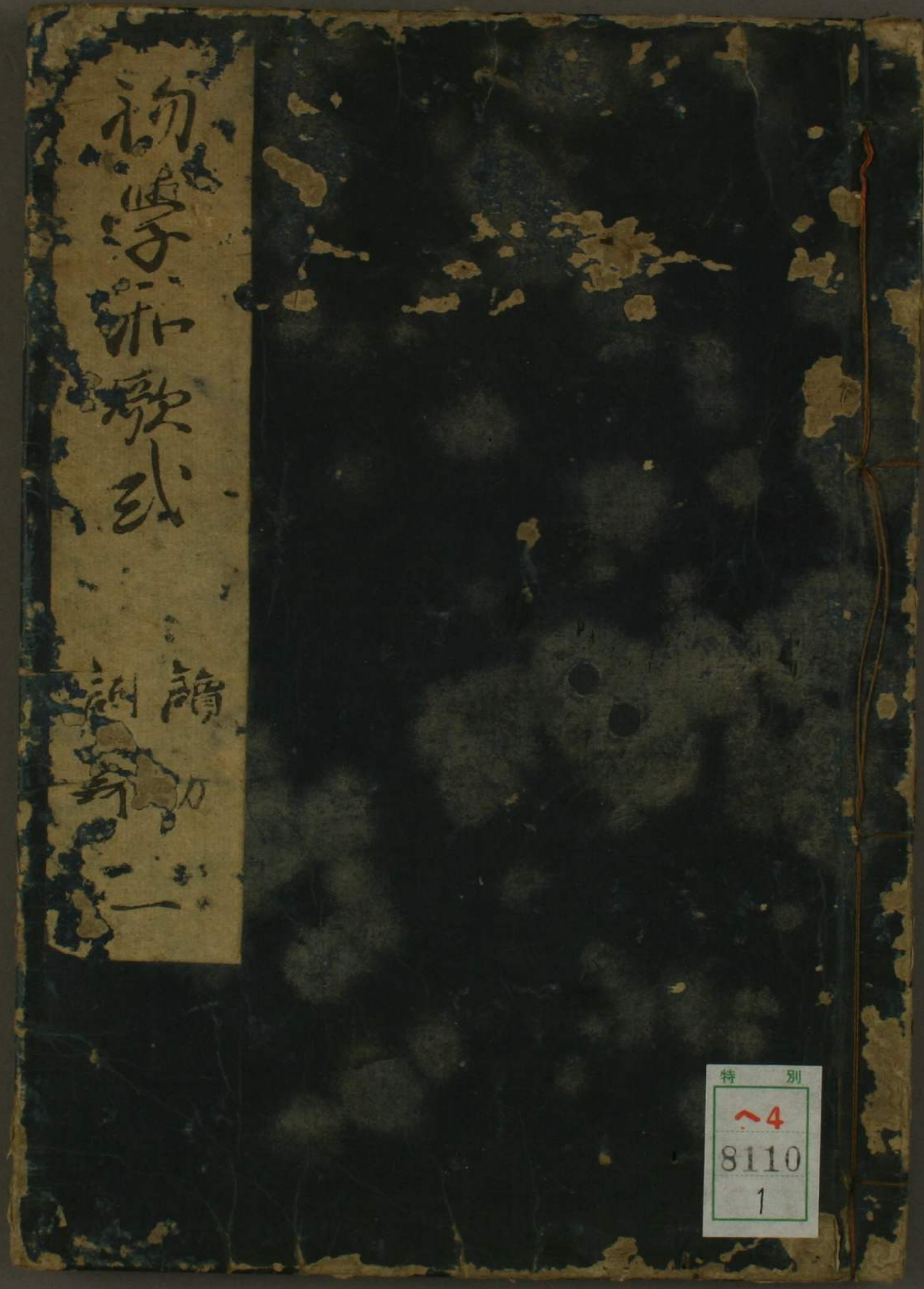
15

B

17

18

19



初學歌式

謝齋

特別  
8110  
1



凡和歌乃讀方を教へし所ありし  
 勸腦式等世に流布せし物も多し  
 少くも和歌の初学を遍く窺ひ  
 元所をありし如く握執せしは古  
 賢に庭訓八濱千鳥法ありし物  
 沖津玉藻乃多し其法は似り仍諸  
 抄と後華一師統等法ありて全  
 部七冊初学和歌式と号す本より

初学和歌式



一歌と下いど事

一雜歌入事

一随文の歌の事

一傍歌入事

一片歌の事

一落歌入事

一寄とく流れ歌の事

一實字の事

一虚字の事

○月二卷 至三卷

一歌と下いど事 并 四季の雜入歌流方の事

一名はの寄流方の事

○七卷

一和奇詞諸抄註釋後三

物字和奇式

類之讀方

卷一

○歌と下いど事 歌と下いど事とは先歌の文字は中よ実字あり

虚字あり実字虚字の事 或は歌のんことそよまら一は流

歌ありまら一は流一は歌あり流 或は其歌におまら

あり不おまらるあり 或は各心と一は自助の事

○歌と下いど事 歌と下いど事とは先歌の文字は中よ実字あり

一和歌抄 和歌抄 或は其歌におまら

路と下いど事 或は各心と一は自助の事

一和歌抄 和歌抄 或は其歌におまら

一和歌抄 和歌抄 或は其歌におまら

一和歌抄 和歌抄 或は其歌におまら

一和歌抄 和歌抄 或は其歌におまら

一和歌抄 和歌抄 或は其歌におまら







意といふもの一字歌ハ法をよむよひて題を下白よむ  
 一とささ法とよまるとハ花かくばと白よむ白鹿のよ  
 一川をひく鳥ハゆふつる月ハ光ハ照照とよむ鳥ハ雲  
 ハ法つりふささくつる鳥ハと云法とくこれとくよ白ハ法  
 下と下白と云ハ法ハ法ハと題をあらうりたれ  
 歌ゆくとくささ法と題とくささ法と云ハ法ハ法ハ  
 一とささ法とよまるとハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ

一近來風神抄（後醍醐天皇御時）云文字もさくれくやとくとある歌  
 とがややうありと云ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ  
 かくやとくとある歌とハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ  
 一とささ法とよまるとハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ  
 一とささ法とよまるとハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ  
 一とささ法とよまるとハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ  
 一とささ法とよまるとハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ

○法歌（びんが）のま事

いふ一字歌のひひまかろくなくれまひありとぞ  
 ありと云とくハ初志霞雲中ノ自かと云とくハ法ハ法ハ  
 これ初志と云とくハ初志霞雲中ノ自かと云とくハ法ハ法ハ  
 法歌乃文字の中ハ法字実字（法）と云とくハ法ハ法ハ  
 一とささ法とよまるとハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ  
 一とささ法とよまるとハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ  
 一とささ法とよまるとハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ  
 一とささ法とよまるとハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ

一末極若門庭訓抄云二字三字より後ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ  
 一とささ法とよまるとハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ  
 一とささ法とよまるとハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ  
 一とささ法とよまるとハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハと云ハ法ハ法ハ





と五文字ありてとておもしろく

一八雲に作あき 之歌はと白は流つくとるまうと

は流るるもとらそれと海門度石の歌かまは二文字ま  
てあれはさやうか人歌扱もたて流人なゆきりゆき  
とんてくうとておれもつそかまは流人歌の扱  
よりハ流人な人なまうたべーとてこれかえて  
それと歌扱とたれがてむとこよりよひつくとる  
一とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
也初と文字ありてとてとてとてとてとてとてとて

矣

新古今

海門度石補

歌の文字ありてとてとてとてとてとてとてとて

月

大嘗大歌重家

月とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

推注

推注

花さきとてとてとてとてとてとてとてとてとて

好字

好字

花さきとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
花さきとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
花さきとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
花さきとてとてとてとてとてとてとてとてとて

歌の文字ありてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて



静。世。家

後古今

太上天皇

あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり

白川五七五

若元大氏

あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり

陸奥拾遺

匡房

あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり

日

為世

あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり

伏見院所

信親

あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり

今世

信成法師

いとねどちうしんせんちう

二早。適逢

家集

後成

七夕の舟渡さうもをうしんせんちう  
七夕の舟渡さうもをうしんせんちう  
七夕の舟渡さうもをうしんせんちう  
七夕の舟渡さうもをうしんせんちう  
七夕の舟渡さうもをうしんせんちう  
七夕の舟渡さうもをうしんせんちう  
七夕の舟渡さうもをうしんせんちう  
七夕の舟渡さうもをうしんせんちう  
七夕の舟渡さうもをうしんせんちう  
七夕の舟渡さうもをうしんせんちう

遠近秋風

玉歌

拾中納言赤季

吹去り月空ひくねれ  
吹去り月空ひくねれ  
吹去り月空ひくねれ  
吹去り月空ひくねれ  
吹去り月空ひくねれ  
吹去り月空ひくねれ  
吹去り月空ひくねれ  
吹去り月空ひくねれ  
吹去り月空ひくねれ  
吹去り月空ひくねれ

宇庭露候

新古今

基佐

庭乃あまをうしんせんちう  
庭乃あまをうしんせんちう  
庭乃あまをうしんせんちう  
庭乃あまをうしんせんちう  
庭乃あまをうしんせんちう  
庭乃あまをうしんせんちう  
庭乃あまをうしんせんちう  
庭乃あまをうしんせんちう  
庭乃あまをうしんせんちう  
庭乃あまをうしんせんちう

麻聲。両方

千秋

又延法師

あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり

空。空。終。候

後古今

定成

あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり  
あられせむちの梅つむさうり

ゆきやう







なづれも神あつめを初よりうらまえてそのおとあせりし  
はこれよのまらごまて初んはゆめくはまらとらひん

歌といは後よゆづりて後す  
か後よゆづるとハ歌乃文字多くはまら  
もかゆーあくひいあふごまらとむひーあふーこのまら  
と感後かうあふごまらと後すうらてその後よゆめりてふ  
といふ

一近來凡神云むとび歌とハまらてふむア一又ハかまら  
後をとりてふむびーとまら 謹母

後朝の文物語 千秋

佐藤心

とハまらまらぬーかうらまらて百歌も日一在後せんハ  
後朝の文物語とハらハ必あらんハ物語してとら歌をまらり  
その朝よのまらてふハふ物語をまらーとらんハ  
とまら実字まらとふ難歌かまらとまらとくハ後よ  
ゆづりてふまらりハ後ハゆめりあふ人女とまらハ  
ハ女のみまら車のみまらとらあふハ百歌後とらハ

あふびーと物語ーとれハ男女のつまらうらてふまら  
歌まらうらひてくうまら乃まらのとよゆめりて今一  
うまらりて男の歌ハあらんハ歌とつらまらとまら  
てまらとていつてまらとてあふまらりぬこれ後朝の文  
とらハ後しとらてハ歌まらりまらあつるむ妙く

等思ぬ人恋

家集

海首法師

ハのふ乃いこの川よまらあふこの流りーやとひあかん  
等思ぬ人とまら人あふらあつとられもあふ後よまら  
んかふハ後ハむー一つのまらあふ女とまら男とまら  
あふその男れんまらゆれもひとーらんハ女も  
つれおとまらいごまらごまらひごづひーまらの  
乃まらまらまらまらいこの川よあふまらとまらり  
らまらまらまらまらいあふらんハ女とまらせん  
まらまら乃男とまらまらいせ田川よのまらまらこれと  
まらひとらハまら乃らとらとら今ひとらハ尾のまら





序判 後ま存段 太きくといひ名のよやうのけりんと  
る歌のいふまへに名はくれ履きとてくやくとて是  
高の歌と併きよえ名はくり履きとてくやくとて是  
おも履のいふまへに名はくり履きとてくやくとて又

新樹

お百首再会

ま長うとていふかたうて秋そめえんまそゆり  
判 後段は太き新樹とて不審して秋そめえんまそゆ  
り一とていふまへに名はくり履きとてくやくとて是  
と兼敷とていふ秋お履きとてくやくとて是  
ふ兼敷かかるとて又兼敷もゆりまそゆり  
秋夕ハ物れいといふまへに名はくり履きとてくやくとて是  
りまそゆり履きとてくやくとて是  
よりて秋うらぶり一板とて兼敷かかるとて

歌のゆきとていふ

ま白なまそ履のゆきとていふてその物とはゆきとて  
漁といふまへに名はくり履きとてくやくとて是

せれく又ハ歌とてゆきとていふてその物とはゆきとて  
とて歌ゆきとて履きとて又履きとてハ歌とてト  
まかりてより合ふ可履し履きとて歌とて物なり  
よつとていふまへに名はくり履きとてくやくとて是

歌とてト下よとていふ

一私書用書よ云又歌乃やうよとていふて歌乃文字とハ  
トよとていふまへに名はくり履きとてくやくとて是  
まかりてより合ふ可履し履きとて歌とて物なり  
よつとていふまへに名はくり履きとてくやくとて是

雅歌のり

雅歌とハ結歌のりといひつりて歌ハ陳朝書物  
恋等思ぬ人恋かこのれく又宝歌は若川百首ハ歌  
一私書庭訓抄といふまへに名はくり履きとてくやくとて是  
歌とて海といふまへに名はくり履きとてくやくとて是  
くりといふまへに名はくり履きとてくやくとて是  
どはらとていふまへに名はくり履きとてくやくとて是  
雅歌かといふまへに名はくり履きとてくやくとて是

經文乃歌の事

經ハ歌歌カ<sup>レ</sup>ハ後<sup>ク</sup>ズ<sup>レ</sup>ビガク<sup>ル</sup>ツの<sup>ツ</sup>ハ又<sup>ハ</sup>歌歌<sup>キ</sup>...

一 是向賢注云

法苑經乃云<sup>レ</sup>乃<sup>ク</sup>法<sup>ヤ</sup>ハ只<sup>ニ</sup>心<sup>ノ</sup>と<sup>ル</sup>...

法苑經序云

廣度諸衆生其數無有量

此<sup>ノ</sup>經<sup>ノ</sup>入<sup>レ</sup>教<sup>ノ</sup>...

内隨喜功德云

最後才五十聞一偈隨喜

各<sup>ノ</sup>門<sup>ノ</sup>乃<sup>ク</sup>...

傳歌の事

内安未行云

傳入釋定見十方外

同譬喻云

其中衆生悉是我子

此<sup>ノ</sup>經<sup>ノ</sup>...

一 是向賢注云

傳歌<sup>ノ</sup>事<sup>...</sup>

るものなりと云それ柳二三分折七八分折すよめハ折あ  
 いらひ物なり傳歌よハかしく云折四分折六分折よす四  
 るハ傳歌と證弄次よ云又ハ折牧ふじ中よあ  
 よ折乃歌めつと又真乃歌よ折とよと云と云といあり  
 されどこれハ三そ五そなりと乃中よやうよめつゆい  
 三十そ五そよかりぬれバこれもくろくくどとこと  
 下よまの歌よ流秋の歌よ秀方か介と乃くこひハ別  
 てうろさ物なりこれとあふ云くハ三十そ五そよハ  
 とつちぐこれバくことくろくくくどとことこれ思置  
 佳乃歌し

一月也七夕七首は天川と云とこと歌よ天川と云と  
 くるくろくくくくくくくこれハかよめつとく三そ五  
 折よハハ傳歌と云と云くくくくくく七夕七首と云と  
 ハよと云くく天川と云と云く何ぞと云と云くくくく  
 りくく定歌ハ七夕七首と云と云く天川と云と云

は後ゆつとありくくくの例なりと云くくくその中  
 ハ傳歌例

一定歌お詠え長遠向その中侍春月

まゝのなは乃形分なりハ傳歌のむめ乃あてくつ  
 是ハ五後乃折と云と云くくくくくくくくくくくく  
 優よと天歌乃あてくくくくくくくくくくくく  
 ンバーと云と云くくくくくくくくくくくく  
 又更た未門尉若内事れと傳れらんむらよせんめさぬ外  
 記六丈馬允めくく物乃くびよのうてくくくくあり  
 らんハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ  
 んくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 傳くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 歌よ歌よ歌よ歌よ歌よ歌よ歌よ歌よ歌よ歌よ歌よ  
 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 かくこれハ傳歌と云



實字の略

おりろく後れぬ歌ありそれをつよく響き劣りて功を  
なすことそれれれつてささうくくかきうてさうくさ  
なり連弄かしくふもつるぬぬあるがごとく山吹牡丹  
かしくおりのろく後れぬ歌也と云々

歌の文字の多ある中よりむむむむありありな  
てさうつら文字あり必ずむむむむ文字と實字といふ  
一八雲口傳之歌の字をなれども必しも字毎は後入なり  
もありれば歌は八何の字を後入してあることと云々  
可後入し字毎は後入しと云々もありしと云々字毎は後入  
したと云々もありと云々と云々季陽巳閑といふ歌はむむ  
くつゆれと云々も乃のふふふおれ川二早し適逢と云々  
ハセタの幸ふと云々おれおれおれ川高律欲盡と云々  
秋乃ふふふおれおれ又字毎は後入しと云々ハ池の  
中水過不達意長思遠念時期空物忘等思ふ念  
け歌ふ可後入し  
實字之類大略  
實字の似しと云々

○出

○寫出谷 ○紅紫出垣之類也  
寫出谷 赤集

お出出出 後撰吟

○入

○後寫入歌 ○山舟入簾之類也  
後寫入歌 百七

山舟入簾 赤集

未

○後未用 月

電未深 五深

ささうく後れぬ歌ありそれをつよく響き劣りて功を  
なすことそれれれつてささうくくかきうてさうくさ  
なり連弄かしくふもつるぬぬあるがごとく山吹牡丹  
かしくおりのろく後れぬ歌也と云々

功字の略

○傷。秋夕傷心、見月傷先之歎

秋夕傷心 千尋

作集

見月傷先 千尋

作集

○厭。被厭患之歎

被厭患

千尋

作集

○到。野至到暮之歎

野至到暮

千尋

作集

○何。秋鐘何在。秋鐘何寺之歎

秋鐘何寺

千尋

作集

秋鐘何寺 千尋

作集

○忘。忘早苗。忘別忘之歎

忘早苗

白川友七郎

行友

忘別忘 千尋

作集

○送。送早苗。送早苗之歎

送早苗

千尋

作集

送早苗 千尋

作集

○恥。恥恥老之歎

恥恥老

千尋

作集

恥恥老 千尋

作集

○梓。風掃落葉之歎

風掃落葉

千尋

作集

○梓。風掃落葉之歎

風掃落葉

千尋

作集

晴

晴天降丁。五月雨晴之類

晴天降丁

灰集

意伝

五月雨晴 日

道途院

初

初花

初花。初花之類

初花

玉集

万葉白歌集

初意

後古今

雜記

早

早。早花早之類

草花早

灰集

後括集院

似

似。似花似月之類

打花似月

新古今

白川院

白

白。白之花類

徒

徒。徒花徒之類

徒花徒

灰集

意伝

隔

隔。隔花隔之類

隔花隔

後古今

定家

隔夜都云

花

冥白

遠

遠。遠花遠之類

遠花遠

灰集

心傲

遠夕集

玉集

万葉白歌集

夕集の十市と云る字乃下より

二十





春日遊

夜集

道玄院

○送  
○送。送目之歌  
○送。送目之歌

花下送目

日

定家

○送  
○送。送目之歌  
○送。送目之歌

逐目花盛

元

永保法隆

○忘  
○忘。忘忘之歌  
○忘。忘忘之歌

花忘光

永集

元

○忘  
○忘。忘忘之歌  
○忘。忘忘之歌

忘忘

新法隆

高氏

○別  
○別。別忘之歌  
○別。別忘之歌

別忘

新法隆

法下法清

○終  
○終。終終之歌  
○終。終終之歌

終終

終言今

定家

○終  
○終。終終之歌  
○終。終終之歌

終終

永集

俊成

○終  
○終。終終之歌  
○終。終終之歌

終終

元

改高

○春  
○春。春春之歌  
○春。春春之歌

春春

永集

後法隆

○春  
○春。春春之歌  
○春。春春之歌

春春

永集

道玄院

○春

永集

道玄院



○ 對 ○ 對水侍舟之歌

對水侍舟 今虫

其後

○ 適 ○ 適乃我の月侍舟のてとさひつて云りしを我はむまのつ  
適逢途之歌

適逢途 我

其後

○ 雲 ○ 折雲糸

折雲糸

内集

其後

○ 丘 ○ 丘是志之歌

丘是志

外集

其後

○ 遠 ○ 遠物悲之歌

遠物悲

續古今

云實

○ 深 ○ 深乃我之歌

深乃我

左思古今

其後

○ 添 ○ 添乃我之歌

添乃我

内集

其後

○ 連 ○ 連乃我之歌

連乃我

日

日

連一連雲

海山七百七

其後

告 ○ 告乃我之歌

告乃我

新勅

其後

○ 積 ○ 積乃我之歌

積乃我之歌

其後

其後













源教養月 終言今 空室白丸大長

源之振 今空 折後大長

○ 殿 松野年之教 終言今 空室白丸大長

松野年 終言今 空室白丸大長

○ 古 古柳之教 終言今 空室白丸大長

古柳 終言今 空室白丸大長

○ 舊 舊之教 終言今 空室白丸大長

舊 終言今 空室白丸大長

○ 如 卯花如之教 終言今 空室白丸大長

卯花如 終言今 空室白丸大長

○ 散 世土紙之教 終言今 空室白丸大長

世土紙 終言今 空室白丸大長

○ 龍 震公於遠村之教 終言今 空室白丸大長

震公於遠村 終言今 空室白丸大長

○ 混 震公於遠村之教 終言今 空室白丸大長

震公於遠村 終言今 空室白丸大長

○ 得 松野年之教 終言今 空室白丸大長

松野年 終言今 空室白丸大長

○ 擇 擇公於之教 終言今 空室白丸大長

擇公於 終言今 空室白丸大長

空室白丸大長





忠貞

新古今

古く天宮

○ 我悪ハ世乃下筆よりそこれおとともく乃をそよふや

○ 帰一ノ意 玉葉

新古今

○ 涯 夏草流之歌

夏草流 友集

新古今

○ 頻 形云凱之歌

都公頻 千尋

新古今

○ 映 家映百之歌

青宋ハ世乃下筆よりそこれおとともく乃をそよふや

新古今

久 久良之歌

久良

後古今

今上天宮

○ 独 独少時雨之歌

独少時雨 後古今

今上天宮

○ 不 不逢恋之歌

不逢恋 新古今

今上天宮

○ 欲 欲別恋之歌

欲別恋 新古今

今上天宮

○ 透 夕立之歌

夕立 夕立之歌

今上天宮

○ 透 夕立之歌

夕立 夕立之歌

今上天宮

形ありくはく小字の事と新書本即凡の事とをいふなり  
右の事と凡の事字の事とをいふ文字と或は初めあり  
てもうと又ハ二の事なるも後とてハ二の事なる  
も文字とハハ之類くありて可也惟若し

虚字乃事

虚字といふハ文字外ハ文字外なる事とて不可決文字

外

野外野外類。之外外類。天外天外類

外之字外凡の事とて不可決文字

色

海色海色類。水色水色類。池色池色類。川色川色類

江色江色類。揚色揚色類

右之字外凡の事とて不可決文字

右之字外凡の事とて不可決文字

上

池上池上類。池上池上類。河上河上類。江上江上類

右之字外凡の事とて不可決文字

天

晓天晓天類

右晓天といふハ天の字は虚字其外天といふハ

ハ実字といふ事なり

文

晓文晓文類。深文深文類

右晓文ハ晓といふハ文とて深文ハ深文の事なり

場

雲場雲場類。草場草場類

右雲場ハ雲草場ハ草とて後ハ草場の字なり

已上実字虚字とて不可決文字其天略とてハ平

實字の事ハ不可決文字其天略とてハ平

